

平成 29 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果に関する報告書

平成 30 年 8 月
上峰町教育委員会

目 次

<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要>	1
1 根拠法	
2 点検及び評価の内容	
3 点検及び評価の方法	
4 点検及び評価の経過	
5 今後の予定	
<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果>	2
1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況	2
（1）上峰町教育委員会の運営状況	2
① 教育委員会	
② 教育委員会事務局	
（2）上峰町教育委員会の活動状況	4
① 教育委員会会議の開催状況	
② 報告及び審議の概要	
③ 活動の状況	
・ 総合教育会議への出席	
・ 教育現場への訪問	
・ 視察・研修会等への参加	
・ 各種会議・行事等への出席	
2 平成 29 年度主な事業・取組の評価シート	8
（上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組）	
（1）教育課所管分	8
（2）生涯学習課所管分	16
（3）文化課所管分	24

<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要>

1 根拠法：「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の内容

- (1) 平成29年度上峰町教育委員会の運営及び活動状況
- (2) 上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組

3 点検及び評価の方法

上峰町教育委員会の運営及び活動状況、主要施策及び主な取組について、実績並びに成果と課題等を取りまとめ自己評価を行った後、教育に関する学識経験者（重松俊宏氏：元中学校校長、元三神教育事務所社会教育担当指導主事）からの外部評価。

4 点検及び評価の経過

- ・ 平成30年6月定例教育委員会 点検及び評価の進め方について承認
- ・ 平成30年6月下旬 学識経験者への外部評価の依頼
- ・ 平成30年7月初旬～下旬 自己評価の実施
- ・ 平成30年7月定例教育委員会 点検評価報告書（概要）の協議
- ・ 平成30年7月下旬～8月上旬 学識経験者による外部評価の実施
- ・ 平成30年8月上旬 点検評価報告書（最終案）の作成
- ・ 平成30年8月臨時教育委員会 点検評価報告書（最終案）の審議及び承認

5 今後の予定

- ・ 平成30年9月 町議会に点検評価報告書を提出した後、ホームページにて公表

＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果＞

1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況

(1) 上峰町教育委員会の運営状況

① 教育委員会

役職名	氏名	任期(当初就任年月日)
教育長	矢動丸 壽之	H27. 4. 1~H30. 3. 31 (H23. 2. 23)
教育長職務代理者	時 津 昌 昭	H28. 10. 14~H32. 3. 31 (H23. 6. 21)
教育委員	田 中 清 美	H26. 10. 1~H30. 9. 30 (H23. 12. 19)
教育委員	原 楨 裕 子	H27. 10. 27~H31. 3. 31 (H23. 6. 21)
教育委員	馬 場 紘 彦	H28. 10. 27~H32. 3. 31 (H24. 10. 27)
教育委員	原 晋 介	H27. 4. 1~H31. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	江 頭 千代美	H29. 4. 1~H33. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	平 川 利 彦	H29. 4. 1~H33. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	原 厚 子	H27. 4. 1~H30. 3. 31 (H27. 4. 1)

平成30年3月31日現在

② 教育委員会事務局

課名	担当事務
教育課 (14人) 放課後児童ク ラブ支援員 6人を含む	1 教育委員会の会議に関すること。 2 事務局、学校その他の教育機関の職員の任免、分限及び懲戒に関すること。 3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出に関すること。 4 工事計画の策定及び教育財産の取得の申出に関すること。 5 教育機関の設置、管理及び廃止に関すること。 6 教育財産の管理に関すること。 7 教育委員会規則の制定及び改廃に関すること。 8 請願、陳情書等の処理に関すること。 9 公告式に関すること。 10 公印の看守に関すること。 11 文書の收受、発送及び編さんに関すること。 12 学校給食に関すること。 13 児童及び生徒の就学に関すること。 14 その他の学校教育に関すること。 15 いじめを根絶する取組に関すること。 16 子ども安全パトロールに関すること。

	<p>17 放課後児童健全育成事業及び留守家庭児童健全育成事業に関すること。</p> <p>18 その他の子どもの安全に関すること。</p> <p>19 総合教育会議に関すること。</p> <p>20 前各号に掲げるもののほか、他係の所掌に属しないこと。</p> <p>21 県費負担教職員の服務に関すること。</p> <p>22 県費負担教職員の研修及び福利厚生に関すること。</p> <p>23 県費負担教職員の任免、分限及び懲戒の内申に関すること。</p> <p>24 学級編制に関すること。</p> <p>25 教育内容及びその取扱いに関すること。</p> <p>26 教科書その他教材の取扱いに関すること。</p> <p>27 学校保健に関すること。</p> <p>28 学校安全に関すること。</p> <p>29 その他の教育指導に関すること。</p>
<p>生涯学習課 (7人)</p>	<p>1 社会教育機関の運営に関すること。</p> <p>2 生涯学習審議会委員の任命並びにそれらの会議に関すること。</p> <p>3 社会教育関係団体の指導育成に関すること。</p> <p>4 講座の開設及び討論会、講習会、研修会、講演会、展示会その他の集会の開催並びにこれらの奨励に関すること。</p> <p>5 社会教育資料の刊行及び配布に関すること。</p> <p>6 社会教育のために必要な設備、器械及び資料の提供に関すること。</p> <p>7 情報の交換及び調査研究に関すること。</p> <p>8 視聴覚教育に関すること。</p> <p>9 視聴覚ライブラリーに関すること。</p> <p>10 青少年育成に関すること。</p> <p>11 地域のおじさん、おばさん及び110番の家に関すること。</p> <p>12 命の大切さ、子どもたちの心を鍛える事業に関すること。</p> <p>13 子どもの悩み相談室に関すること。</p> <p>14 その他の社会教育に関すること。</p> <p>15 スポーツ振興審議会及びスポーツ推進委員会の委員の任命及びそれらの会議に関すること。</p> <p>16 体育スポーツ指導者養成及び体制の確立に関すること。</p> <p>17 体育スポーツ関係団体の育成に関すること。</p> <p>18 住民スポーツの生活化に関すること。</p> <p>19 スポーツ事故に関すること。</p> <p>20 スポーツ施設及び設備に関すること。</p> <p>21 前各号に掲げるもののほか、スポーツ振興に関すること。</p>

文化課 (6人)	1 文化財の保護に関すること。 2 図書館に関すること。 3 歴史資料の保管及び整理に関すること。 4 文化及び芸術の向上に関すること。 5 その他文化の伝承に関すること。
-------------	--

平成 30 年 3 月 31 日現在

(2) 上峰町教育委員会の活動状況

① 教育委員会会議の開催状況

会議種別	開催期日	主な議案
臨時会	H29. 4. 2	教職員の平成 29 年度人事異動報告
定例会	H29. 4. 25	上峰町生涯学習審議会の委員任期に伴う委嘱について 上峰町社会教育委員の委員委嘱について 上峰町放課後子どもプラン推進事業運営委員会の委員任期に伴う委嘱について 要保護・準要保護児童生徒の認定について 平成 29 年度 6 月補正予算について 平成 29 年度全国学力・学習状況等調査の公表について
定例会	H29. 5. 24	準要保護児童生徒の認定について 学校・家庭・地域連携協力推進事業について
定例会	H29. 6. 20	上峰町学校給食費補助金交付要綱(案)について
定例会	H29. 7. 25	町民体力づくり体育大会について 9 月補正予算要求について
臨時会	H29. 8. 21	平成 29 年度小学校教科書採択(道徳)について 9 月補正予算の提案について
臨時会	H29. 8. 24	事務局職員の休暇等について
定例会	H29. 9. 26	町史編さん委員(案)について 平成 29 年度 天然記念物「八藤丘陵阿蘇 4 火砕流堆積物及び埋没林」史跡等保存活用計画策定事業に係る保存活用 計画策定委員(案)について
定例会	H29. 10. 24	上峰町私立幼稚園就園奨励費補助金交付に関する規則の一部を改正する規則(案)について

定例会	H29. 11. 27	平成 30 年度予算要求について 上峰町子ども・子育て会議の委員推薦について
定例会	H29. 12. 19	上峰町教育委員会教育委員について
定例会	H30. 1. 30	上峰町史編さん委員会設置規則（案）について 上峰町史執筆委員及び執筆者の経費に関する要綱（案）について 準要保護児童生徒の認定について
臨時会	H30. 2. 16	放課後補充学習の取り組みについて 放課後補充学習の拡充について
定例会	H30. 2. 20	公民館、地域、家庭の連携による場の提供について 小中学校管理職付議に係る臨時教育委員会の開催について
臨時会	H30. 3. 5	管理職異動付議について
定例会	H30. 3. 20	上峰町スポーツ推進委員について 就学援助認定について

② 報告及び審議の概要

- ・ 大神中高等学校との国際交流について
- ・ 6月議会について
- ・ 町民体力づくり大会について
- ・ 町民文化祭について
- ・ 9月議会について
- ・ 中学校放課後補充学習事業について
- ・ 12月議会について
- ・ プロポーザル審査会委員について

③ 活動の状況

- ・ 総合教育会議への出席

開催期日	協議事項
H29. 9. 20	放課後児童クラブ、学校施設長寿命化計画策定、市町村費負担教職員制度、部活動指導員制度
H30. 2. 13	図書館等学びの場の創設、放課後補充学習（習い事予算）の拡充
H30. 3. 5	放課後補充学習（習い事予算）の拡充

- ・ 教育現場への訪問

期 日	訪問先
H29. 6. 10	小学校土曜開校

H29. 6. 17	中学校オープンスクール
H29. 6. 27	小学校訪問
H29. 6. 30	中学校公開授業
H29. 7. 24	ひよ子保育園かみみね訪問
H29. 8. 29	ひかりこども園訪問
H29. 9. 26	かみみね幼稚園訪問
H29. 11. 12	小学校日曜授業参観
H29. 11. 18	中学校授業参観
H29. 11. 25	小学校土曜開校
H29. 12. 1	中学校訪問、活用力公開授業
H30. 1. 27	小学校授業参観
H30. 3. 9	中学校卒業証書授与式
H30. 3. 16	小学校卒業証書授与式

・ 視察・研修会等への参加

期 日	視察先・研修会名
H29. 4. 26	県教育長連春季定期総会・研修会
H29. 5. 10～5. 12	全国教育長会
H29. 5. 26	県町教育長会研修会
H29. 6. 30	県教委連定期総会・研修会
H29. 7. 10	三神地区教育委員会連絡協議会総会・研修会
H29. 11. 28	三神地区教育委員会連絡協議会秋季研修会
H30. 1. 19～20	上峰町教育委員会視察研修

・ 各種会議・行事等への出席

期 日	会議名・行事名
H29. 4. 2	教職員辞令交付式
H29. 4. 11	小・中学校入学式
H29. 5. 28	町子どもクラブドッチビー大会
H29. 6. 28	小学校学習田稲文字田植え
H29. 7. 3～6	青少年育成地区懇談会
H29. 7. 28～30	青少年育成サマーキャンプ
H29. 8. 27	近圏少年剣道錬成大会
H29. 9. 9	中学校体育大会
H29. 10. 1	小学校体育大会
H29. 10. 8	町民体力づくり体育大会
H29. 10. 28	中学校文化発表会
H29. 11. 3～5	上峰町民文化祭

H29. 11. 6	小学校学習田稲文字稲刈り
H29. 11. 10	子ども議会
H29. 11. 28	青少年育成大会講演会
H29. 11. 29	小学校餅つき体験
H30. 1. 8	成人式
H30. 1. 30	学校長意見交換会
H30. 3. 29	小中学校教職員辞任式

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	スクールカウンセラー配置事業			所管課	教育課			
				費目	事務局費			
事業費 (千円)	1,600	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				271			1329	
目標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題への対応は、学校において重要な課題である。 このため、児童・生徒の臨床心理に関して高度な専門的知識・経験を有するスクールカウンセラーを派遣し、もって学校におけるカウンセリング機能の充実を図る。							
実績等	<p>小学校248時間、中学校212時間、スクールカウンセラーによる児童・生徒や保護者への相談活動、教職員への支援・助言、関係機関や地域の援助機関との連携等を行った。</p> <p>対象者別件数 児童 38件、生徒 67件、保護者 51件、教職員 81件</p>							
成果と課題	<p>不登校傾向や対人関係の問題についてのカウンセリングは継続も含め希望者も多く、また、問題改善の方向性も出るなど成果を上げた。</p> <p>配慮を要する児童・生徒やその保護者については、ケース会議を実施するが、その中でスクールカウンセラーとの連携は重要な位置を占めており、スクールカウンセラーの助言は重要な示唆を与えてくれる。</p> <p>スクールカウンセラーに繋がらないケースもあり、担任以外とはかかわりを持つことを好まない保護者の支援や保護者が相談に行きやすい時間の設定が課題である。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		計画時数に従い、多くの案件をカウンセリングすることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		問題の改善につながっており、大きく評価できる。スクールカウンセラーの必要性が高まっていることから、配置時間のさらなる確保に努めてほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	特別支援教育就学奨励費補助事業 要・準要保護就学援助			所管課	教育課			
				費目	教育振興費			
事業費 (千円)	6,842	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			455				6,387	
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を与えることにより義務教育の円滑な実施に資するため、次に掲げる費目を予算の範囲内で援助する。 (1)学用品費等、(2)校外活動費(宿泊を伴うもの)、(3)修学旅行費、(4)新人学児童生徒学用品費、(5)医療費、(6)学校給食費							
実績等	支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を与えた。 特別支援教育就学奨励費補助事業 小学校 19人 615,914円 中学校 6人 304,065円 計 25人 919,979円 要・準要保護就学援助 小学校 48人 3,258,887円 中学校 27人 2,668,527円 計 75人 5,927,414円							
成果と課題	全児童・生徒の保護者宛、制度を知らせるチラシを配布することで制度の周知徹底を図った。 認定に当たっては所得金額のみで一律に判断するものではなく、児童・生徒の日常生活及び家庭の諸事情を総合的に判断して認定することとなっており、周知及び受付時において今後も丁寧な取り扱いを要する。							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	全児童生徒の保護者への周知徹底により、広く制度を活用することができた。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	保護者の経済的負担の軽減とニーズに応じて適切な教育を受けられる体制をさらに充実させてほしい。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	放課後健全育成事業			所管課	教育課			
				費目	児童育成費			
事業費 (千円)	6,104	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			868	868		3,497	871	
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	次世代を担う児童の健全育成を図るため、昼間保護者のいない家庭の小学校児童に対し、放課後及び長期休業中に学童クラブにおいて保護及び育成を行う。							
実績等	上峰町放課後児童クラブにおいて、120名の児童に対し、放課後及び長期休業中に保護及び育成を実施した。 指導員6人態勢で運営するとともに、指導員に対し自主研修会を年1回実施した。また、指導員においては「放課後児童支援員」の資格を取得すべく県主催の研修会に参加し、3名が資格を取得した。							
成果と課題	<p>小学1年生においては、児童の半数(50人)が申し込んでいるなど、定員の上限を保育している。 施設の床面積が限られており定数上十分な面積が確保できていない。</p> <p>施設床面積 143.6㎡ 面積要件 一人当たり概ね1.65㎡以上 要件上の定員 87名</p>							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	限られた施設の中でも事故が無いように安全安心に努めるとともに、待機児童が無いよう希望者全員を保育している。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	限られた中で、保護及び育成が十分に行われているが、施設の充実に努めてほしい。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	小学校オンライン英会話委託 中学校オンライン放課後補充学習 委託			所管課	教育課			
				費目	先進的教育推進費			
事業費 (千円)	8,299	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							8,299	
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	<p>小学校オンライン英会話については、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学5、6年生の外国語活動の時間において、オンライン英会話授業を実施した。</p> <p>中学校のオンライン補充学習については基礎学力の定着と苦手分野克服を図るため、中学1、3年生を対象に放課後時間においてオンラインによるマンツーマンの補充学習を実施した。</p>							
実績等	<p>小学校オンライン英会話については、9月から週1回、5、6年生を対象に外国語活動の時間にフィリピンの講師との15分間のオンラインによるマンツーマンの英会話学習を行った。</p> <p>中学校においては、3年生は11月から1月まで放課後の時間に一人5コマ、英語または数学の補充学習や入試に向けての学習を行った。</p> <p>1年生は1月から3月まで放課後の時間に一人5コマ、英語または数学の補充学習を行った。</p>							
成果と課題	<p>小学校においては、チューターとの学習の経験を重ねることで、英語の発音を聞く活動に慣れ、外国人に話すことへの抵抗が減ってきた。</p> <p>既習の単語や言い回しを用いて、チューターとのコミュニケーションを取れるようになってきて、日常英会話の基本的な表現をずいぶん身につけた。課題としては、テキストの工夫や授業の頻度、評価について今後検討が必要である。</p> <p>中学校においては、学習意欲の向上につながり、苦手な部分を集中して取り組むことで理解の深まりにつながった。課題としては暗くなるのが早い時期であるため、下校時間との兼ね合いを工夫する必要があった。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		小学校でのオンライン英会話から中学校での英語克服へとつながり、佐賀県学習状況調査では佐賀県平均を上回ることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		他の市町にない特色ある取組であること、また、学力向上にもつながっており、大きく評価できる。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	学校給食費補助金 おいしい給食補助金 学校給食調理業務委託			所管課	教育課			
				費目	事務局費、学校給食費			
事業費 (千円)	63,804	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							63,804	
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	学校給食は児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童・生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである。 学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施により、学校給食の充実及び学校における食育の推進を図る。							
実績等	<p>学校給食及び食育の指導を次のとおり実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進。 ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養う。 ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養う。 ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。 ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養う。 ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める。 ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導く。 							
成果と課題	<p>栄養教諭の配置により、適切な栄養の摂取による健康の保持増進に努めることができた。また、異物混入にかかる事案についてマニュアル化し、小・中学校の喫食現場において初動対応の共有化をはかった。さらに、食物アレルギーに対して、児童・生徒の個別の状況に応じて対応した。</p> <p>異物混入については、調理現場のみならず、食材納入業者の理解と協力が必要不可欠であり、給食関係者への指導及び情報共有に努める。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		異物混入対応に終始し、学校給食の本来的目的である、美味しい給食への取組にかかる時間の確保が困難な状況にあった。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		学校給食は、安心・安全が第一であり、異物混入のないよう常に細心の注意を払って取り組んでほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	教職員の資質の向上			
事業名 ・ 取組名	児童生徒の活用力向上研究指定 事業			所管課	教育課			
				費目	教育振興費			
事業費 (千円)	302	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				300			2	
目 標	研修や研究活動の充実を促進し、使命感にあふれ、実践的な技術・指導力を持つ教職員の育成に努める。							
目的や内容	小・中学校共通のテーマに「児童・生徒が自ら考え、共に学び、活用力を高める指導方法の研究」を掲げ、小・中連携して活用力向上に向けた取組を行った。							
実績等	協議・検討のための会議として、小・中学校研究推進委員会を3回実施した。また、小学校は年に3回、中学校は年に2回、地域に授業を公開し、授業研究会を行った。その他にも校内における授業研究会や研究の成果を測る指標としてアンケートの実施などを行った。							
成果と課題	<p>成果としては、小・中学校がお互いに指導案検討・授業参観・授業研究会を行ったことで、活用力向上及び学力向上への意識が高まり、授業力向上に向け、ベクトルが焦点化された。</p> <p>課題としては、小中連携への意識をこれから高めていくために夏季・冬季休業中等をうまく利用して合同研修会等を開催する必要がある。また、小中連携を円滑かつ効率的に行うためにも見通しをもってコーディネートしていく必要がある。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		補助事業を活用し、児童・生徒の活用力の向上における指導案検討、授業研究会等を実施し、小・中学校及び教育委員会の連携のもと教職員の育成を図ることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		小・中学校、教育委員会が連携して、教員の資質・能力の向上を目指す取組は大いに評価できる。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	学校施設・設備の整備充実			
事業名 ・ 取組名	小中学校各種改修・工事 防音関連維持事業			所管課	教育課			
				費目	施設整備費、学校管理費			
事業費 (千円)	27,965	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			3,482				24,483	
目 標	学校施設・設備の老朽化や劣化への対応や、障がいのある児童・生徒のための施設のバリアフリー化を図るとともに、ICT利活用教育のための情報機器の充実、学校図書館の蔵書の充実など、設備や教材・教具の整備充実を図る。							
目的や内容	老朽化や劣化する学校施設及び設備について、適切な維持管理に努め安全安心な学校生活を提供する。 通年の維持管理に加え、障がいのある生徒を受け入れるべく多目的トイレを設置する。							
実績等	<p>小・中学校の維持管理について、次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校多目的トイレ設置工事 6,702千円 ・中学校排水設備設置工事 1,188千円 ・中学校テニスコート西側法面等工事 5,260千円 ・中学校特別支援学級等空調設備取替工事 1,832千円 ・中学校図書室空調設備設置工事 2,203千円 ・小学校特別支援学級間仕切等内部改修工事 4,255千円 ・小学校図書館準備室空調設備設置工事 993千円 ・防音関連維持事業(空調電気代助成) 5,532千円 							
成果と課題	<p>長年の懸案事項であった中学校グラウンドの排水不良について、排水設備を設置することで少ない工事費で一定の成果をみた。 老朽化する小学校北校舎の空調設備について、防衛省の補助を活用するなど更新計画を進める。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		小・中学校の施設・設備について、必要に応じ順次維持管理することが出来た。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		今後さらに老朽化が進むことから、計画的に対応を図っていく必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	開かれた、信頼される学校づくり			
事業名 ・ 取組名	学校家庭地域の連携協力推進事業			所管課	教育課			
				費目	先進的教育推進費			
事業費 (千円)	600	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				400			200	
目標	家庭や地域の声を反映した学校運営の推進、学校評価の実施・公表等により、開かれた、信頼される学校づくりを推進する。							
目的や内容	家庭や地域の教育力の低下が懸念される中で、いじめや不登校等の社会的課題に対応して、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、三者総ぐるみの教育を進めていく。							
実績等	地域未来塾については、4月より年間を通して、中学校において全学年を対象に希望者に対して、毎週水曜日の放課後、1時間程度、タブレットパソコンによるドリル学習や学校の宿題等、自主学習を行った。							
成果と課題	<p>成果としては学習習慣の定着という点で学校の学習と家庭学習の橋渡しができた。また、こういう場を提供することで学習環境の整備に繋がっている。</p> <p>課題として放課後の時間を活用しているため部活動の兼ね合いで、参加者が少なかつた。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		補助事業を活用し、学校・家庭・地域が連携しながら生徒の学習習慣の定着を構築することができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		特になし					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策		生涯学習関連施設の適正管理・利用促進	
事業名 ・ 取組名	町民センターの管理・運営			所管課		生涯学習課	
				費目		社会教育施設費	
事業費 (千円)	32,143	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							32,143
目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。						
目的や内容	町民センターの適正管理及びサービスの向上に努め、利用促進を図る。町民センターは、ホールの空調設備の修理工事を行い、施設の環境を整備する。また、施設の使用については、引き続き利用促進を図るために、丁寧な対応を行い気持ちよく利用して頂く。						
実績等	町民センターについては、ホールの空調設備の修理工事を行った。また、利用者が快適に利用するためにより丁寧な対応を行うことができた。利用者数は、昨年25,129名から今年31,706名と増加した。 平成30年度からの利用に向けて、町民センターの一部屋(視聴覚室)を小中学生並びに高校生等の自主学習の部屋として提供し、土・日の休業日も含め広く開放するようにした。						
成果と課題	町民センターの維持管理の一部として、空調設備の修理工事を適切に行ったが、今後も施設全体の経年劣化が進んでいくので、日頃より点検を行う必要がある。また今以上に町民が利用しやすく、人が集まる場所となるよう自主学習の部屋を含め施設利用のPRをする必要がある。						
自己評価	評価の結果		評価の理由				
	達成		計画どおりホールの空調設備の修理工事が完了し、町民センター利用者数の増加が出来た。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項				
	達成		何より、利用者が大きく増加している点を評価したい。今後も、人が集まるセンターづくりのために努力してほしい。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策		町民の自主的な学習活動の活発化	
事業名 ・ 取組名	ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	375	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							375
目標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、そのその成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。						
目的や内容	町民ニーズの動向や本町の特色・資源、社会・経済情勢の変化を踏まえ、特色ある講座・教室として、ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を行い、参加して楽しかった、勉強になったなど、参加して良かったと言っていただけるような取組を行う。						
実績等	ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を17回行い、延べ525名の参加があった。韓国料理を作ったり、薬剤師による「お薬と楽しく明るく元気に」を演題に健康の講話、バスに乗って糸島市に行き懐石料理を食べたりする現地研修、佐賀本丸歴史副館長による「佐賀の偉人伝」のお話しなど、様々な講座・教室を開催した。						
成果と課題	計画どおり年17回の講座や教室を行い、今まで以上に参加者を増やすことができた。今後も、内容を見直しながら時代や町民のニーズに沿った講座や教室を行う必要がある。						
自己評価	評価の結果		評価の理由				
	達成		今後も内容の充実に努めていくが、計画通り年17回の講座や教室ができた。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項				
	達成		今後も、町民の多様な意識や要望を把握し、開催講座や行事の改善を図ってください。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成			
事業名 ・ 取組名	青少年育成地区懇談会			所管課	生涯学習課			
				費目				
事業費 (千円)	0	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、各種の健全育成活動を積極的に推進していく。							
目的や内容	地域のみinnで、子どもたちを守り育てるためにはどうすれば良いのかを考えるために、19分館ごとに特に夏季休業を前に懇談会を開催し、子どもたちを巡る課題を共有し、地域住民の意識を高める。							
実績等	7月3日(月)～6日(木)の4日間に19分館の全てにおいて実施できた。総参加者数447名で、前年度より43名ほど減少している。地域での子どもの過ごし方や地域の行事について話したり、危険な場所の確認、地域の大人と子どものコミュニケーションのとり方の検討など、いろいろな話し合いができ、子どもたちをどうやって地域で育てるかを考える懇談ができた。							
成果と課題	年に1回、夏休み前に実施して、年に1回でも地域の子どもの育て方について考える機会を設けることにより、子どもへの意識が高く持てるようになると考えられる。より多くの方々に参加していただくために、魅力ある懇談会にしていく必要がある。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		計画通りに全19分館にて地区懇談会を実施し、青少年育成の意識の向上ができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		全分館で実施できていることは、大きく評価できる。各分館の世話役の方に感謝します。参加者を増やすための手立てを具体的に講じてほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成			
事業名 ・ 取組名	あいさつ日本一運動をはじめとする 健全な社会環境づくり			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	401	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							401	
目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、各種の健全育成活動を積極的に推進していく。							
目的や内容	あいさつすることが人と人との関わり合いの始まりであり、コミュニケーションの始まりでもあることから、町民1人1人があいさつの意識を上げ、地域の雰囲気向上を目指すために、あいさつ日本一運動に取り組む。 また地域の現状を知るために、町内青少年防犯巡回パトロール活動により、小売店等に出向いて有害図書や酒・たばこの取扱状況を把握し、青少年への対応をお願いするなど健全な社会環境づくりを進める。							
実績等	小・中学校を中心に、校門で先生方や児童・生徒があいさつ運動をしたり、地域の方々が通学路で交通誘導及び挨拶運動を行った。子どもたちは積極的にあいさつができています。 また、防犯パトロールや小売店への訪問を行ったが、注意するような子どもたち見当たらなかった。							
成果と課題	子どもたちから大人の方へ積極的にあいさつする子どもが増えているように感じられる。また、パトロール中に注意する子どももいなかった。 今後も、あいさつの意識の向上に向け継続していく必要がある。また、防犯パトロールは、子どもたちの集まりそうな場所や危険な場所等を大人が把握できる利点があり、大人の目を光らせておく必要があるので引き続き実施する。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		あいさつ運動の継続、防犯パトロール、小売店への訪問等が実施できた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		あいさつ運動や防犯パトロール等、今後も家庭・学校・地域・行政等が連携した青少年育成の活動に取り組んでほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成			
事業名 ・ 取組名	地域の教育力の向上			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	532	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				354			178	

目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、各種の健全育成活動を積極的に推進していく。
-----	--

目的や内容	青少年が家庭や学校以外でも同世代の青少年や異年齢の人々と交流し、自主性や社会性を育てていくことができるよう、放課後子ども教室の開催及びPR活動の推進を図り、放課後や週末における青少年の居場所づくりを充実させる。地域の指導者により、放課後の小学生を対象にいろいろな体験・経験をする教室を開催する。
-------	---

実績等	英会話・和太鼓・3B体操・ゲートボール・ハングル語・パステルアート・水墨画・書道・自然観察・お菓子作り・凧づくりなど年24回の教室を実施し、総数444名の参加者があった。
-----	---

成果と課題	計画以上に教室の開催を行い、参加者も376名から444名と増加した。主に毎週土曜日の午前中に町民センターで実施しているが、町民センターから遠い子どもたちは自分で来れないので、実施場所や実施曜日時間を変更しながら実施してみることも検討したい。
-------	--

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	実施回数を増やし参加者数を増やすことは出来たが、ゲートボールやハングル語教室などは参加者が少なく、ゲートボールについては予約制とし、ハングル語教室は中止した。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	計画変更はあったものの、実施回数や参加者は増加しており、事業へのニーズを感じる。 今後、活動内容の充実とともに、児童が参加しやすい条件を整えていってほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ施設の整備充実			
事業名 ・ 取組名	スポーツ施設の整備・運営			所管課	生涯学習課			
				費目	体育施設費			
事業費 (千円)	1,608	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							1,608	

目 標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。
目的や内容	中央公園や体育センターをはじめとする各スポーツ施設(プール・武道館・テニスコート等)について、老朽化への対応や利用促進に向けた施設・整備の建替も含めた検討を行い、改修等を計画的に進める。 また、管理運営体制の充実を図り、利用者数の増加に向け、利用者が利用しやすい環境整備を進める。
実績等	小学校グラウンド防護マットの修理、町民プール更衣室前の床マット張替、テニスコートの照明の漏電修理、中央公園の捕虫器の修繕、体育センタートイレ手洗器排水修理など1,608千円で修理を行った。施設全体の改修計画については、年度中には作成することはできなかった。 利用者数の増加に向け施設ごとに連絡調整を密に行い、施設が空いている時間帯に新たに団体に利用していただくことができた。
成果と課題	施設の修理は、利用者の安全を一番に考え修理を行うことができた。引き続き日頃の点検を継続的に行い、早めに対応できるようにする必要がある。 利用者数を増やすために、平日の昼間の利用について利用者へPRすることが必要である。

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	計画通りに修理できた部分は一定の評価ができるが、安全管理の面で新たに修理必要な部分も生じており、その対応が必要である。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	施設の老朽化がさらに進むため、計画的な修理が必要である。年次改修計画を早めに作成し、見直しをもって対応してほしい。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ団体・指導者の育成			
事業名 ・ 取組名	スポーツ団体や総合型スポーツクラブへの支援			所管課	生涯学習課			
				費目	保健体育総務費			
事業費 (千円)	2,893	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							2,893	
目標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。							
目的や内容	<p>体育協会をはじめ自主的なスポーツ団体の育成・支援に努めるとともに、新たな指導者の発掘・活用に努め、町民の自主的なスポーツ活動の活発化を促進する。また、総合型スポーツクラブが自主運営組織として定着し、活発な活動が行われるよう、運営やクラブリーダーの育成について助言・支援を行う。</p> <p>町内14種目の競技団体865名の体育協会においては、各種目競技団体への運営補助、県民体育大会種目の選手の確保や出場手続き、町民体育大会の運営など、本町におけるスポーツ振興の中心的な組織として貢献している。総合型スポーツクラブ「ふれあい友遊かみみね」については、子どもから年配の方まで、多世代交流、心と体の健康、生きがいと青少年の健全育成を目指し週4日開催している。</p>							
実績等	<p>体育協会については、各種目団体によりスポーツ大会の開催、県民体育大会への出場調整、町民体育大会への役員参加など、スポーツ関係について、活発に活動した。</p> <p>また、「ふれあい友遊かみみね」についても、計画どおり週4回実施し、年々参加者が増え、会員153名と昨年より17名増えている。</p> <p>事業費の内訳としては、体育協会へは活動費818千円と県民体育大会補助金1,281千円、「ふれあい友遊かみみね」に対し794千円の補助を行った。</p>							
成果と課題	<p>体育協会においては、各種目団体の連絡調整がうまくできているが、事務を行う人材の不足など運営の在り方の検討が必要である。「ふれあい友遊かみみね」については、町の補助金に頼らない4年後の自主運営に向けて会員増が出来た。今後もニーズに沿った事業の見直しを検討していく必要がある。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		体育協会や「ふれあい友遊かみみね」との連携をこれまで以上に密に行い、町民の健康維持にどう関わっていくか考える必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		生涯スポーツの観点から、スポーツ・レクリエーションの講習会や教室が日常的な実践やグループづくりにつながることを期待したい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化芸術の鑑賞会と発表会の充実			
事業名 ・ 取組名	上峰町文化祭			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	727	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							727	
目標	文化協会等と連携し、町民文化祭の内容充実に努めるとともに、多様な文化・芸術を鑑賞する機会と活動成果を発表する機会の充実に努める。							
目的や内容	文化協会の22サークルが日頃から活動していることの最大の発表の場が町文化祭であり、各サークルの目標ともなっている。この文化祭をより盛り上げるために、幼稚園児・保育園児、小・中学生、和太鼓、よさこいなど文化協会以外にも町民参加型により、多くの町民が発表会や展示会に参加できる楽しい文化祭を目指す。							
実績等	<p>11月3日～5日の3日間で第32回町民文化祭を開催し、作品展示では絵画、写真、書道、生け花、編み物やアートフラワーなど約500点の作品の出展があった。演芸発表では、39演目で409名の方々が熱演し、来場者は約1900人であった。</p> <p>また、最終日にはカラオケ大会を開催し、団体10組30曲の熱唱があり、大盛況に終えることができた。</p> <p>文化協会との事前打合せや連携がとれスムーズに運営ができた。費用としては、文化協会への補助金227千円、文化祭パネル設置費用500千円であった。</p>							
成果と課題	<p>文化活動の発表の場として、町文化祭が賑やかに開催され、町民全体で元氣と感動を分かち合う行事となっている。</p> <p>文化協会の会員数が毎年減少しているのが現状で、新たな加入者をどうするか、また、新たな文化・芸術団体の発掘が課題である。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		発表会や展示会は計画どおりにできた。また、多数の出演者や展示出品者とともに、多数の観覧者に会場にいらした。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		文化協会や諸団体の協力の賜である。文化協会の会員数減少については、種々の対策を講じる必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策		生涯学習関連の適正管理・利用促進	
事業名 ・ 取組名	ふるさと学館の充実			所管課	文化課		
				費目	ふるさと学館費		
事業費 (千円)	16,785	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
						17	16,768
目 標	管理運営体制を拡充し、展示内容の充実や企画展・特別展の開催、学校教育との連携、各種歴史・文化講座・読み聞かせ講座の開催等を進め、本町の歴史・文化の研究拠点、情報発信拠点として機能の強化を図る。						
目的や内容	町民のニーズに即した蔵書の充実 子どもの集いの場、生涯学習拠点として機能強化を図り、幅広い年齢層へのサービスの提供をし、利用者増を図る。						
実績等	蔵書の購入冊数は、図書購入費が平成27年度(1,500千円)・平成28年度(2,100千円)・平成29年度(3,100千円)と予算を上乗せした結果、蔵書冊数は平成27年度(55,782冊)・平成28年度(56,030冊)・平成29年度(56,643冊)と増加している。新書、リクエスト本を今まで以上に購入可となり貸出冊数(平成28年度42,750冊・29年度42,352冊)・利用者数(平成28年度8,763人・29年度8,325人)もまちづくりプランの平成33年度目標(貸出冊数40,000冊・図書館利用者数8,200人)を超えた数字となっている。						
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「家読」の促進 県事業の子どもが本に親しむ環境づくり推進事業(読み聞かせ講座・読み聞かせスキルアップ講習会・読み聞かせノート配布等)への取り組みや町で読み聞かせ教室の開催をし、「家読」の促進を図る。 乳幼児健診時にブックスタートや読み聞かせ教室のPRを行う。 各家庭での読書習慣の定着 ・現在小中学校2ヶ所団体利用登録を社協等3ヶ所増加を目指す。 						
自己評価	評価の結果		評価の理由				
	達成		購入冊数が増加し、目標蔵書数に達している。 購入冊数が増え、新書版やリクエスト本が増加し、利用者も増加した。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項				
	達成		特になし				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	町内遺跡確認事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	4,863	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			2,000	720			2,143	
目 標	指定文化財の適正な保存及び維持管理に努めるとともに、その他の文化財や埋蔵文化財についても、調査体制の充実のもと、発掘調査等を推進し、その保存・活用を図る。							
目的や内容	町内全域で事前の埋蔵文化財確認調査を実施。この調査により開発対象地区内の埋蔵文化財について概要を把握し、開発と埋蔵文化財保護との調整を図る。							
実績等	開発届出等件数42件、確認調査実施件数20件、本調査実施件数6件。 また、国庫補助事業の適用を受け平成元年度から実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成28年度分の調査について整理作業を実施し、調査報告書を刊行した。							
成果と課題	<p>檜寺遺跡の駐車場、住宅基礎工事の影響が及ぶ記録保存を目的とした本調査を実施した。その結果、弥生時代の溝跡や、弥生時代から中世に及ぶ土壇、ピット等を検出し、それらの遺構から弥生土器片、土師器片、須恵器片、黒曜石などが出土した。</p> <p>調査の結果、弥生時代から中世に及ぶ遺構、遺物を検出し、弥生時代から中世に及ぶ遺構がかなりの密度で良好な状況で依存していることが確認され、弥生時代以降の本地区の時代的な変遷を考える上で貴重な資料を得ることができた。今後課題として無届着工がある。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		開発に伴い、事前の埋蔵文化財確認調査を行い、文化財保護との調整を図った。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		町内の文化財を将来にわたって保全・活用するために、適切な調査等が行われている。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	天然記念物『八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林』天然記念物再生事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	7,601	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			3,800	1,368			2,433	
目標	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 の保存整備について、土地の公有化の完了を受け、太古木の保存環境の回復作業を行う。							
目的や内容	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 文化財指定地区内の地下水位低下の原因となっている文化財指定地区北側に圃場整備事業で掘られた水路について、埋没樹木等の有機遺体の保存環境の回復を目的とする。							
実績等	保存地区内の地下水位の上昇を企図した北側水路埋立工事を行い、水位を保っている。							
成果と課題	有識者の指導により、埋立てた水路内の浸透水位をモニタリングするための地下水位観測井戸を3か所に設置した。今後は、水路内に新規に設置した地下水位観測井戸、文化財保存区域内の既設の地下水位観測井戸を活用し、地下水位のモニタリングを行い、通年の地下水位の変動を確認し、埋没樹木等の保存環境を維持していきたい。							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 文化財指定地区内の地下水位の上昇を企図した北側水路埋立工事を行い、水位を保っている。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	特になし						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用		
事業名 ・ 取組名	天然記念物『八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林』天然記念物史跡等保存活用計画策定事業			所管課	文化課		
				費目	文化財保護費		
事業費 (千円)	1,689	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
			844	303			542
目標	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 に係る整備については、周辺整備を含めた将来の保存公開を視野に入れ、保存公開施設までの全体的な保存活用計画を策定した上で、保存整備事業を進める。						
目的や内容	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 に係る保存整備事業を進めるにあたり、有識者からなる保存活用計画策定委員会を組織し、委員会の指導を仰ぎ、太古木の保存活用計画を策定する。 本年度は、保存公開施設の整備、有機遺体の保存処理方法などの問題点について検討整理する。後上峰町が事業主体となり当該文化財の保存整備・活用事業を実施していく上で、より効果的な事業の実施に向け、平成29・30年度の2カ年で保存活用に係る全体的な事業計画を策定していく。						
実績等	平成29年10月6日、今回の保存活用計画策定に係る第1回「太古木保存活用計画策定委員会」(以下、「委員会」。)を開催した。太古木の取り扱いについて経過報告を行った後、同様の埋没樹木の保存処理施設の先進地事例について情報の共有を図った。その後、今後の保存活用に係る現状と課題を抽出すべく協議、検討を行った。 平成30年2月28日、第2回委員会を開催した。第1回委員会の結果を受け、事務局において抽出、整理した保存活用に係る現状と課題について提示し、その内容について協議、検討を行った。その後、保存活用計画書の構成内容について事務局案を提示し、事業2ケ年目となる平成30年度の作業項目などについて内容や工程について協議、検討を行い、平成29年度の作業を終了した。						
成果と課題	2ケ年継続事業の初年度である平成29年度は、有識者および町関係者からなる「太古木保存活用計画策定委員会」を組織し、文化財の保存活用計画策定の前提となる当該文化財が抱える現状と課題について、2回の委員会をとおして協議、検討し一定の整理を行うことができた。 委員会の開催にあたっては、専門業者に委員会支援業務として関連先進地事例の情報収集や資料の作成等の業務を委託し、より円滑に事業を進めることができた。 2年次目の平成30年度は、保存活用計画策定に向け、平成29年度の作業の成果を踏まえ、引き続き委員会の指導、助言を受けながら計画書の取りまとめ作業を実施し、計画書を刊行する。						
自己評価	評価の結果		評価の理由				
	達成		文化財の保存活用計画策定の前提となる当該文化財が抱える現状と課題について、2回の委員会をとおして協議、検討し一定の整理を行うことができた。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項				
	達成		保存整備事業が保存活用に向けて計画的に遂行されている。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	民俗芸能等伝統文化事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	620	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							620	
目標	米多浮立やみやき町西の宮などの無形民俗芸能等伝統文化財について、保存団体の育成・支援や環境整備等を行う。							
目的や内容	米多浮立やみやき町西の宮などの無形民俗芸能等伝統文化財について保存団体の育成を行い、積極的な保存・伝承に努める。							
実績等	<p>○米多浮立保存会ライセンス使用料 552千円 奉納年であったが、台風のため奉納が見送られた。米多浮立保存会へこれまで奉納経費等について、町補助金を交付してきたが、平成27年度よりこれまでの補助を休止し、「天衝米」の名称使用に伴い、ライセンス使用料を支払うこととした。</p> <p>○みやき町西の宮伝統文化保存会補助 68千円 田中地区が出演者が集まらず浮立奉納が見送りとなった。西分地区で稚児舞が10月22日に奉納された</p>							
成果と課題	後継者不足で出演者が不足気味の状況である。特に、中高生をはじめ若手の後継者育成が急務である。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		米多浮立は、台風のため奉納が見送られたが、保存団体の育成として、「天衝米」の名称使用に伴い、ライセンス使用料を支払っている。また、補助金によるみやき町西の宮伝統文化保存の育成を行った。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		伝統文化継承の担い手育成のための具体的な手立ても講じる必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成29年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	町史編さん事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	415	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							415	
目 標	本町の貴重な歴史・文化や風土を次世代に継承していくため、町史編さん作業に取り組み、新たな町史を刊行する。							
目的や内容	代々先人たちが築きあげてきた伝統的・歴史的なものの多くが記録や保存されず失われていく前に、特に昭和54年村史編さん以降本町が歩んできた道程を詳細に調査するとともに資料の収集・保存を図り、歴史的特長をより鮮明にし、一般の方が平易に理解できるような『上峰町史』を発刊することで町への認識が一層深められ、今後のより良い町づくりに寄与することを目的とする。							
実績等	<p>第1回編さん委員会11月22日、第2回編さん委員会12月22日開催し、基本計画、内容・構成、年次計画、執筆委員選任を行った。</p> <p>2月19日開催の第3回編さん委員会及び編集部会で、執筆委員を加え、運営上の支援(会議資料、議事録作成等)及び編さん基本方針・企画案作成の業務委託をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町史編さん委員会の編さん委員及び執筆委員の組織の確立。 ○町史編さん計画の内容・構成 基本方針の確定。 ○町史編さんの年次計画の確定。 ○『上峰村史』から『上峰町史』へのリライトする上での目次の検討。 							
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○『上峰町史』執筆要領及び目次を協議検討し方針の確定をする。 ○各委員の調査、資料収集を促し、原稿執筆にかかる。 ○現代分野での行政の協力が必至になる。 							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	『上峰町史』執筆要領及び目次を協議検討し方針の確定を行った。また、計画通り編さん作業は進んでいる。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	特になし						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

